

韓国語中級学習者の作文における誤用分析¹ - 非専攻者の場合 -

白 寅英、山田 佳子
宋 美玲、印 省熙

Analysis of errors in Essays Written by Korean Intermediate learners - In the case of non-major students -

BACK Inyoung, YAMADA Yoshiko
SONG Meeryung, IN Sunghi

본 연구는 일본 대학에서 선택 외국어로서 한국어를 배우는 중급 학습자들의 작문에 나타난 오류를 분석한 것이다. 본 연구에서는 수집된 오류를 유형별로 분류하여 그 양상과 특징을 살펴 보았는데 특히 조사의 혼동이나 누락 등의 오류가 큰 비중을 차지하고 있음을 알 수 있었다. 또한 일본어와는 달리 다양한 형식으로 나타나는 연결 어미와 관형사형 어미 사용에 있어서의 오류와 시제 및 상 관련의 오류도 많이 나타났다.

이러한 본 연구의 오류 분석 결과는 한국어 교수 학습에 있어서 두 가지의 중요한 점을 시사해 준다고 할 수 있다. 하나는 조사 사용은 한일 양 언어의 유사점으로 학습상 용이한 항목이지만 그럼에도 불구하고 오류 발생 빈도가 높게 나타나는 사실은 조사 습득에 어려움이 있다는 것을 말해 주는 것이다. 본 연구를 통해 이러한 습득 곤란한 조사의 세부 항목들이 상세히 밝혀졌다. 또 하나는 연결어미나 관형사형 어미 등 일본어와 달리 한국어에서 다양한 형식으로 나타나는 문법 형식에 있어서도 오류의 발생 빈도가 높았는데 이러한 오류는 한일 양 언어의 차이에서 기인하는 것으로 빈번한 오류 발생이 예상될 수 있는 항

1 本稿は「朝鮮語教育学会第70回例会」(2016年6月19日、京都女子大学)にて口頭発表した「韓国語の中級学習者の作文における誤用分析-非専攻者の場合-」に加筆、修正を加えたものである。なお、本研究は日本学術振興会科学研究費(基盤研究(C)15K02701)の助成を受けている。

목이다. 본 연구에서는 이러한 잠재적 오류에 대하여 실제의 오류를 토대로 구체적인 양상과 특징을 기술하였고 이러한 분석 결과는 앞으로의 한국어 교육에 있어서 유용한 자료로 활용될 수 있을 것이다.

1.はじめに

本稿は、選択外国語として韓国語を学ぶ、非専攻の中級学習者²の作文に現れた誤用例を採集し、その誤用の様々なパターンを分類したうえで、とりわけ出現頻度の高いものを取り上げ、その様相を記述するものである。

外国語教育において、誤用分析は学習者の誤用を認識することにより、新たな指導案の提示が可能になるという点で重要である。また、指導者のフィードバックによって、学習者は自らの誤用を認識し、予防することができるという点においても有用である。

本稿は、韓国語専攻の中級学習者を対象とした印省熙ほか(2016)³の誤用研究に続くものであり、本稿において非専攻の学習者の誤用について考察することにより、日本の大学で韓国語を学ぶ日本語母語話者にとっての習得困難な項目を明らかにすることを念頭に置いている。さらには、その結果を今後の韓国語教育における、誤用を防ぐための指導案づくりに活かしていくことを目指している。

2. 先行研究と本稿の研究方法

2.1. 先行研究と本稿の立場

韓国語教育における従来の誤用分析研究は、言語圏別には日本語圏学習者を対象にしたものが最も多いとされる⁴。中でも文法項目についての考察が目立つ。例を挙げれば、相についての이수경(1997)、時制についての이정희(2001)および김정남(2006)、助詞についての김정은(2004)および안경화·양명희(2005)、이지연(2012)、接続副詞についての사와다히로유키(2004)、連結語

2 本稿の作文資料の作成者は、選択外国語として韓国語を受講し2年目後半～3年目の受講生に該当し、「ハングル能力検定試験」3級を到達目標としている。この学習者らを本稿では「中級学習者」とみなす。

3 印省熙ほか(2016)では韓国語専攻者における誤用の様相を報告した。

4 김상수·송향근(2006:7-8)による。

尾についての김정남 (2006) 等がある。その一方で、広い範疇のものを取り上げている研究としては、이수경 (1996)、우인혜 (1998)、양명희 (2004) 等が代表的である⁵。

これらの研究は、이지연 (2012)、이수경 (1996、1997) を除いてその多くが韓国内で学習する日本語母語話者を対象にしており⁶、海外で学ぶ韓国語学習者についてはあまり目が向けられていない。すなわち、従来の研究は目標言語に常に曝されている韓国在住の学習者を対象にしているため、目標言語ではなく、母語の環境にある学習者が起こしやすい誤用の特徴を見逃しかねない。また、多くの研究が文法等の個別項目を扱っており、表記、文法、語彙、表現等の全般にわたる誤用の特徴を網羅しているものは少ない。

これらの先行研究に対し、印省熙ほか (2016) では、日本国内における日本語母語話者の韓国語学習者に目を向け、とくに大学で学ぶ中級学習者に焦点を当てている。本稿はこの論文と同様のスタンスに立ち、中級学習者のなかでも選択外国語として学ぶ非専攻の学習者を対象としている。そしてその作文に現れた誤用例を採集して誤用のパターンを分類し、頻出する誤用を取り上げて分析し、その様相を述べた。

2.2. 研究の方法

2.2.1. 分析資料について

本稿の分析対象である作文資料は、日本の関東地域の二つの大学⁷における非専攻学習者を対象とする中級クラスと中上級クラス⁸、計8クラスの延べ人数55名（異なり人数44名）の、2011年度から2015年度までの授業で課された9回の作文⁹（総765文、総6,432語節）であり、そこから約1200の誤用例が採集された。

5 先行研究について印省熙 (2016) 参照。

6 김선호 (2009: 4) においても、従来の誤用研究はそのほとんどが韓国に留学中の学習者を対象としたものであると指摘している。

7 神田外語大学と早稲田大学の2大学の学生を対象としている。

8 本稿では中級クラスと中上級クラスを合わせて中級とする。

9 作文のテーマは「자기소개」、「나와 한국어」、「생활 속 에피소드」、「한국과 일본의 다른 점」の4種類である。

2.2.2. 誤用例の採集基準

本稿は、「文法性 (grammaticality)」と「容認可能性 (acceptability)」を誤用判定の基準¹⁰とし、文法的な間違い、語彙上・表記上の間違いや文脈・談話上の不適切さ (不自然さ) 等を誤用例として採集した。作文の添削や誤用例の採集および検討に関わる作業は、5名の韓国語教師 (韓国語母語話者4名、日本語母語話者1名) によって行った¹¹。

また、이정희 (2002)¹²と양명희 (2004) の誤用例採集の手続きと基準にいくつかの修正を加え、次のような基準を設けている。

- ① 誤用として判断され、添削された箇所のある文をすべて採集
- ② 文法上の誤用のみならず、文脈上の修正もすべて採集
- ③ 表記の誤用において単純ミスと考えられるものも有用な資料として採集

なお、誤用例の表記は、下線部が誤用箇所であり、< >内が添削による修正内容 (正用) である。

例) 「두 번째에<로> 놀란 점은 목욕이예요。」

2.2.3. 誤用例の分類とその分布

本稿では이정희 (2003: 84) の分類方法¹³に倣い、採集した誤用例を「文法論的誤用」(助詞・語尾・時制・補助用言・語順等)、「意味論的誤用」(単語・複合語・慣用的な語句等語彙の意味的關係に係るもの)、「表現・談話論的誤用」(談話・文脈や表現構造等文作りに係るもの)¹⁴、「表記上の誤用」¹⁵、「その他」(判読不可能なもの)に分類し、分かち書きは分析の対象としない。

10 詳細は이정희 (2003)、市川保子 (2001) を参照した。

11 誤用判断に関わったのは4名の韓国語母語話者と1名の日本語母語話者であり、全員日本の大学の韓国語の教師である。

12 이정희 (2002: 177-180) では誤用判定の手続きと、その類型分類の方法を提示しているが、「誤用の識別」については文法性 (grammaticality) と容認可能性 (acceptability: 文脈や談話上の自然なつながり) の判断等、多くの細部の基準の設定が必要であると指摘している。

13 이정희 (2003: 84) では、「原因に基づく分類」と「結果の判定に基づく分類」に二分し、さらにそれぞれを『母語の影響』・『目標語の影響』・『教育課程』と、『範疇別』・『現象別』・『程度別』といった項目に下位分類している。本稿はこのうち『範疇別』の分類に着目し、基本的には小分類の「発音・文法・語彙・その他」に沿った分析を行った。

以上の基準に沿って採集の誤用例を分類すると以下のような分布を示す。

【表1】

分類		誤用例数	比率 (%)
1	文法論的誤用	576	48.4
2	意味論的誤用	287	24.1
3	表現・談話論的誤用	162	13.6
4	表記上の誤用	127	10.7
5	その他	38	3.2
合計		1,190例	100.0%

3. 誤用の様相

3.1. 文法論的誤用

文法論的誤用は576例で、全体の48.4%を占めており、具体的には助詞や接続形、連体形、テンス・アスペクト形式の誤用が目立つ。助詞234例、接続形86例、連体形44例、テンス・アスペクト形式39例、助詞と語尾の形態的誤用42例、その他131例が観察されたが、以下その詳細について述べる。

3.1.1. 助詞 (234例：文法全体の40.6%)

助詞の誤用は234例が観察され、文法全体 (576例) の40.6%を占めている。なかでも助詞の混同や漏れ、付加等が多く見られるが、まずそれぞれの数値を示すと以下のとおりである。

【表2】

誤用現象	混同	漏れ ($\phi \rightarrow$)	付加 ($\rightarrow \phi$)	その他 ¹⁶	合計
数	101	90	25	18	234
例	가 ¹⁷ <를> (22) 等	ϕ <에> (28) 等	의< ϕ > (18) 等	의<인>等	

- 14 「表現・談話論的誤用」は文脈に係るものや、より自然な韓国語表現に直されたもの等文作りに係るものを含むが、この中には厳密には「誤用」とは言えない例も含まれる。
- 15 本稿の誤用例は作文資料に基づくので「発音」ではなく「表記」の項目を設ける。
- 16 例を挙げれば、「의 (5) \rightarrow 인 (3) / 라는 / 에 대한」、「에 (3) \rightarrow 하게 / 에 대해 / 에 대한」、「로 (3) \rightarrow 를 놓고 / 를 타다 / 에 따라」等がある。
- 17 助詞の表記は母音で終わる体言につく形で示し、用言の表記は「하다」で代表する。

このうち、最も用例の多い助詞の「混同、漏れ、付加」の各項目の詳細は以下のようになる。

【表3】

数	誤用	正用
混同 101例	가(28)	를(22) / 는(2) / 도(2) / 로 / 에서
	에(22)	에서(6) / 로(6) / 를(4) / 가(2) / 에게(2) / 와 / 의
	를(12)	에(6) / 가(3) / 도(2) / 는
	나(9)	와(7) / 도 / 로
	는(7)	로(3) / 가(2) / 도 / 에
	도(5)	나(2) / 와 / 의 / 까지
	에서(5)	에(3) / 로(2)
	로(5)	에서(3) / 를(2)
	부터(2) 의(2)等 ¹⁸	에서 / 에 가 / 는
漏れ 90例	φ	에(28) / 를(19) / 는(14) / 의(13) / 가(5) / 도(5) / 와(2) / 나 / 로 / 에게 / 에서
付加 25例	의(18) / 가(3) / 를(2) / 에 / 로	φ

表2と表3から分かるように、助詞の誤用は234例のうち、「混同」が101例と最も多く、その誤用形式は「가」(28例)、「에」(22例)、「를」(12例)の順に頻出している。次に「漏れ」が90例観察されたが、「에」の漏れが28例と最も多く、次いで「를(19) / 는(14) / 의(13)」の順となっている。また「付加」は25例であり、不要な「의」の使用が18例と目立つ。

助詞の誤用全体を出現頻度の高い順に並べると、「φ <에>」が28例と最も多く、次いで「가 <를>」が22例、「φ <를>」が19例、「의 <φ>」が18例、「φ <는>」が14例、「φ <의>」が13例と続く。以下、その具体例を見ていく。

3.1.1.1. 助詞「에」の漏れ

「에」の漏れは全部で28例、そのうち「시절, 장래, 다음」等の「時」を表す

18 ほかに、「까지 <부터> /
에게 <와> /
에게서 <가> /
와 <를>」の4例がある。

名詞につく場合がほとんどで、22例観察されたが、(1)～(3)がその例である。その他、時名詞ではない(4)と(5)のような例も見られた。

- (1) 저는 중학교 시절<에> 한국에 관심을 갖기 시작하고<시작해서> 한국어 공부를 시작한 지 한 5년 정도 됐습니다.
- (2) 한국어를 선택한 이유는 장래<에> 공항에서 일을 하고 싶었기 때문에 그냥 아시아의 언어를 배우고 싶어서요<싶어서였어요>.
- (3) 다음은<에는> 더 길게 유학해 보고 싶어요.
- (4) 한국 영화도<에도> 관심이 많으니까 시간이 있으면 (後略).
- (5) 제가 느낀 한국과 일본의 다른 점은 많지만 오늘은 지하철<에> 대해서 이야기를 하겠어요.

(1)～(3)のような誤用は、油谷幸利(2005:126)で「朝鮮語は相對時の後でも-에をつけるのが一般的で、日本語では相對時の後では「に」が脱落するのが一般的¹⁹」と指摘しているように、日韓両言語の相違に起因するものといえる。また、(3)と(4)の「에는/에도」のように、助詞を組み合わせる際に「에」の漏れが生じる傾向があり、(5)のように「에 대해서」のような文法的連語における「에」の漏れも見られる。

3.1.1.2. 助詞「가<를>」の混同

「가<를>」の混同(22例)は、「좋아하다(好み), 할 수 있다(可能), 잘하다, 알다, 모르다」等の述語が続く場合であり、これらの述語が要求する助詞における日韓両言語の相違に起因するものである。

- (6) 저는 한국 배우나 한국 노래가<를> 좋아한다는<좋아하는> 것은 아니에요.
- (7) 그래서 지금은 자기가 제일 좋아하는 것이<을> 할 수 있어서 즐거워요.
- (8) 그 친구들은 놀라도록<놀라울 만큼> 일본어가<를> 잘해요.

19 日本語の「に」について、이수경(1996:89)でも「日本語は発話の時点を基準とする時間名詞には「に」を使わないのが普通である」としている。

3.1.1.3. 助詞「를」の漏れ

「를」の漏れは19例見られたが、「를」の不使用により、文の自然さが損なわれている誤用が多く観察されている。次の(9)～(11)がその例である。

- (9) 앞으로도 어머니뿐만 아니라 모든 친구<를> 위해서 (後略).
- (10) 저는 낮<을> 가리는 편인 데다가 한국어 실력도 부족해서 처음에는 좀 고생했는데, (後略).
- (11) 한국 친구들<을> 더<많이> 늘려고<사귀고> 싶어요.

(9) の場合は「～のために」が韓国語では「～를／을 위해서」と現れる日本語との相違によるものであり、(10) と (11) は、「를」が省略されると文の自然さが損なわれる場合である。

3.1.1.4. 助詞「의」の付加

「所有・所属」を示す「の」を必要とする日本語の影響により、不必要な「의」が付加されている誤用が目立ち、18例観察されているが、次の(12)～(14)がその例である。

- (12) 너무<아주> 친절한 학원의<학원> 선생님이나<과> 방의<방> 친구들 떠분에<덕분에> (後略).
- (13) 한국의<한국> 가수는 목소리가 아주 좋은 사람이 (後略).
- (14) 아침의<아침> 금무<근무>는 일은 쉽지만<쉽지만> (後略).

不要な「의」については、一般的に初級の早い段階から指導されているにも関わらず、(12)～(14)で見られるように、中級のレベルにおいても誤用が頻出しており、日本語母語話者にとって日本語の「の」の使い方と異なる「의」の習得が難しいことを示唆する。

その一方で、次のように「의」が必要であるのにも関わらず、漏れている誤用も13例観察されている。

- (15) 요즘에는 장래<의> 꿈에 관한 이야기<를> 해요.
- (16) 사극<의> 독특한 표현이 좋아해서<좋아서> 한국 사극을 자막 없이 볼 수 있게 되고 싶습니다.

(17) 마쿠하리에서<의> 생활은 재미있습니다.

初級の段階では「의」を省くように指導されてきたことに対する過剰一般化とも見られるが、「의」の現れる条件についての説明不足もその原因として考えられる。「독서의 계절」(行為の対象や目標)、「마음의 등불」(比喩表現)、「세 명의 학생」(数量関係)、「만일의 경우」(慣用的表現)等、学習レベルに合わせて「의」の現れる場合についての説明も必要である²⁰。

3.1.1.5. 助詞「는」の漏れ

「는」の漏れは14例見られるが、(18)と(19)は「対比」を表す「는」の漏れの例であり、それによって文の自然さに欠けている誤用が多い。

(18) 일본에서는 두 역 정도로도 160엔<이> 들지만 한국에서<는> 멀리 가도 1600원 들은 것이<이상 드는 일이> 별로 없어요.

(19) 즉 지금 일본에서 스물 드<두> 살인 저는 한국에 가면 스물 세 살이 되는 것인데 제가 처음으로 한국에 갔을 때<는> 그럴<그런> 줄 모르니까<몰랐기 때문에> (後略).

その他、助詞の誤用で注目されるのは、「를」の誤用が「混同、漏れ、付加」のすべてにわたって頻出していることである。例えば、「가<를>」が22例、「예<를>」が4例、「로<를>」が2例で、計28の混同がある。漏れ(「 ϕ <를>」)は19例、付加(「를< ϕ >」)は2例あり、全部で49例にもなる。他の助詞に比べ、様々な誤用パターンが現れた。

3.1.2. 接続形²¹ (86例：文法全体の14.9%)

接続形の誤用は86例観察されており、「해서, 하고, 하니까, 하는데」等の使い分けにおける誤用が多い。それぞれの誤用パターンと用例数は以下のとおりである。

20 油谷幸利ほか(2015)では「의」の不使用と使用に関する詳しい記述がある。ほか안경화・양명희(2005)、国立国語院(2012)等参照。

21 接続形の種類については김진호(2010)、『コスモス朝和辞典』第2版、印省熙(2013)を参照した。

【表 4】

数	誤用	正 用
26	해서	하교(9) / 하니까(3) / 하면서(3) / 한 지(2) / 했기 때문에(2)等
19	하교	해서(14) / 하교 나서 / 하면서 / 하며 / 한 후 / 하다고
8	하니까	해서(7) / 했기 때문에
7	하는데	하지만(2) / 하겠지만 / 하니까 / 해서 / 했더니 / 하지만
5	하면	하니까(2) / 하교 나서 / 한다면 / 하교
4	하면서	하게(2) / 하교 / 하니까
17	하계等	하교 / 하듯 / 한A

接続形の誤用を誤用形式別に見ると、「해서」26例、「하교」19例、「하니까」8例、「하는데」7例、「하면」5例の順に現われているが、そのうち、「하교 <해서>」の誤用が14例と最も多く、次いで「해서 <하교>」が9例観察され、「하교」と「해서」の混同が計23例で最も多い。以下、用例の多い「하교」と「해서」、「하니까」と「해서」について述べる。

3.1.2.1. 「하교」と「해서」の混同

前述したように、「하교 <해서>」が14例、「해서 <하교>」が9例見られ、接続形の誤用として最も多い。まず、次の(20)と(21)は「하교」が「해서」に訂正された例である。

- (20) 힘껏 <털썩> 앉았다가 너무 딱딱하교 <딱딱해서> 깜짝 놀랐어요.
- (21) 블렌드는 한국어로 원두커피라는 뜻이고 간 커피콩에 끓인 물을 따르교 <따라서> 우려낸 커피이다.

(20) の例における「硬くて」は「びっくりした」ことの原因であるので、「해서」形が必要である。(21)における「お湯を注ぐ」ことは「コーヒーを入れる」ために前提となる事柄であり、このように二つの事柄が緊密に繋がっている場合は、韓国語では「하교」形ではなく「해서」形を用いなければならない²²。

22 印省熙(2013:14)では、先行の場合「하교」は前件と後件がそれぞれ別々の事柄でただ二つの事柄を時間の順で並べているのに対し、「해서」は「前提」または「目的」等の結びつきを成しながら、前件と後件の二つの事柄が緊密に繋がっている」としている。

次の(22)と(23)は「해서」が「하고」に直された誤用例である。

- (22) 한국 사람 패션은 센스가 좋아서 <좋고> 최첨단이고 <최첨단이라서> 봐서 <보면> 재미있어요.
 (23) 약 5년 <정도> 일을 해서 <하고> 28살에 결혼하려고 합니다.

(22)は、「面白い」ことの原因として「センスが良い」と「最先端である」ことが並べられており、(23)は「仕事する」と「結婚する」という二つの事柄を時間の順で述べているので、(22)と(23)は両方とも「해서」形ではなく「하고」形を用いるべきである。

これらの誤用は、日本語の「して」形が韓国語では「하고, 해서, 하면서」等、多様な形式で現われるため、その日韓両言語の相違に起因するものとみられる。

3.1.2.2. 「하니까」と「해서」の混同

原因や理由の「하니까」と「해서」の混同が多数見られたが、「하니까」が「해서」に訂正された誤用が7例、「해서」が「하니까」に訂正された誤用が3例である。次の(24)と(25)がそれぞれの例である。

- (24) 저는 고등학생 때 한국인 친구가 있었으니까 <있어서> 그 때부터 한국과 한국어에 관심을 가지게 되었어요.
 (25) 곧 학생 생활도 끝나서 <끝나니까> <지금> 하고 싶은 것을 많이 하려고 해요.

(24)の場合は前件と後件が原因と結果の関係であるので、「해서」を用いるべきであり、(25)の場合は、後件の意図に対する強い理由として前件を述べており「하니까」を用いる方がより自然である²³。

3.1.3. 連体形 (44例：文法全体の7.6%)

連体形の誤用は44例観察された。動詞「할<하는>」が15例と最も多く、次いで動詞「할<하는>」が6例であった。

23 このような例に関する判断は、韓国語母語話者の間にも揺れがある。

【表5】

数(44)	誤 用		正 用
23	한	動詞(23)	하는(15) / 할(2)等
11	할	動詞(9) : 形容詞(2)	하는(6) / 했을(2)等 : 한(2)等
9	하는 ²⁴	動詞(6) : 形容詞(3)	할(4) / 한(1)等 : 할(1)等
1	했던	動詞	하는

3.1.3.1. 「한<하는>」の混同

現在連体形「하는」を用いるべきところに、過去連体形「한」を用いた誤用が15例観察されているが、そのうち、目立つ誤用は後続の名詞が「것」である場合で、9例みられた。

- (26) 지금<요즘>은 인생 설계를 한<하는> 것을 좋아합니다.
- (27) 영화를 보고 감상을 써 놓은<놓는> 것을 좋아합니다.

また、(28) と (29) のように一般的事実、習慣的な事柄に過去の連体形が使用されている誤用例が多く見られた。

- (28) 역시<또> 술을<에> 취하는<취한> 양 행동한<행동하는> 여자 손님도 있어요.
- (29) 외국이<을> 너무 좋아해서 여행은 늘<자주> 간<가는> 편이에요.

3.1.3.2. 「할<하는>」の混同²⁵

一般的事実に対して未来連体形を用いた誤用であるが、8例が観察されており、この場合も後続の名詞が「것」の場合が多数観察されており、(30) と (31) がその例である。

- (30) 외국 문화를 알<아는> 것은 자기 나라의 문화를 다시 생각하는 계기가 되요<돼요>.
- (31) 한국인들이 자주 시킬<시키는> 것이라고 하면<것은> 아메리카

24 形容詞の現在連体形は「한」であるが、動詞の「하는」を代表として示す。

25 「할<하는>」の8例には形容詞「할<한>」が2例含まれている。

노다.

また、(32) と (33) のように「것 같다」や「모양이다」が後続する場合にも見られた。

- (32) 한국에 여행에<을> 간 어떤 사람으로부터 물은<들은> 이야기에 서는<이야기에 따르면> 한국의<φ> 버스는 매우 빠를<빠른> 모양이다.
- (33) 의미에도 소리에도 일본어와<는> 다른 아름다움이 있을<있는> 것 같아요.

(32) と (33) の場合は、すでに聞いたり、経験した事柄に基づく推量や不確実な断定を表す場合である。

3.1.3.3. 「하는<할>」の混同²⁶

未来連体形「할」を用いるべきところに現在連体形「하는」を用いている誤用が5例あったが、(34)～(36)のように後続の名詞が「생각, 정도, 때」の場合に見られる。

- (34) 앞으로도 열심이<열심히> 공부하는<공부할> 생각이예요.
- (35) 덕분에 좋아하는 배우나 가수와 한국말로 이야기를 나눌 수 있는<있을> 정도로 실력이 늘었습니다.
- (36) <그리고> 내가 술을 마시는<마실> 때는<도> 주의하고 (後略).

上の(36)のように「때」を修飾する場合は他の連体形においても誤用が7例生じており、(37)と(38)のように、「할 때」「했을 때」形式の未習得が窺える。

- (37) 한국 친구의 아버님과 대화한<대화할> 때에 (後略).
- (38) 일본보다 교통비가 싸니까 제가 한국에 있었은<있었을> 때는 전철을 타서<타고> 많은 곳에 놀러 갔어요.

26 「하는<할>」の5例には形容詞「한<할>」が1例含まれている。

また、「하는<한다는>」²⁷のように引用形式で表す必要がある場合があり、(39)と(40)がその例である。これらは、日本語では「すること」と訳されるが、韓国語では「한다는 것 (するということ)」のように引用形式を用いる必要がある。

- (39) 한국에 가서 느낀 일본과의 다름<다른 점>은 아파트가 너무 높은
<높다는> 것입니다.
- (40) (前略) 한국사람은 다른 사람<의> 시선에 신경을 안 쓰는 사람이 많은
<많다는> 것입니다.

他に、次のような「-기 전」「-기 힘들다」等文法的な連語形式における混乱が見られる。

- (41) 그리고 결국 만들고 말고<만들지 않고> 그날<그냥> 학교에 가는
<가기> 전에 편의점에서 도시락을 사요.
- (42) 아침의<φ> 금무<근무>는 일은 쉽지만<쉽지만> 졸음에<을>
참은 것<참기>가 힘들어요.

3.1.4. テンス・アスペクト形式 (39例：文法全体の6.8%)

連体形を除き、テンス・アスペクト形式の誤用は39例が採集された。主に過去形の不使用や、習慣・繰り返しの事柄に過去形を用いる等といった誤用が多い。

【表6】

数	誤用	正用
21	하다	했다(20) / 하고 있다
13	하고 있다	하다(7) / 했다(5) / 할 수 있다
4	했다	하다(3) / 했었다
1	하고 있었다	했었다

27 「하는<한다는>」のように動詞の形式を代表として示し、形容詞の「한<하다는>」もここに含まれる。

3.1.4.1. 「하다」と「했다」の混同

過去の出来事に過去形を用いていない「하다<했다>」誤用が20例と最も多い。下記の例は、いずれも発話時より以前の出来事について、現在形を用いている場合である。

- (43) 이전은<이전에는> k-pop에 관심이 없습니다<없었습니다>.
- (44) 한국에 대해서 알아보면<알아보니까> 한국은 일본에서 가깝고, 문화도 비슷한 점이 많이 있어요<있었어요>.
- (45) 아무것도 사지 않는데<않았는데> 피곤했습니다.

一方、「했다<하다>」は3例あったが、次の(46)と(47)がその例である。

- (46) 매년 후지산에 올랐어요<올라가요>.
- (47) 하지만 그 후는<에는> 성실히 공부하고 있었어요<있어요>.

(46)は「매년」を伴って反復的な事柄を示し、(46)と(47)ともに現在まで出来事が継続していることを示す場合である。

3.1.4.2. 「하다」と「하고 있다」の混同

日本語の「している」の直訳によるものと考えられるが、「하고 있다<하다>」の誤用が7例あり、次の(48)と(49)がその例である。

- (48) 한국 친구는 남의 눈을 의식해서 자기 의견을 바꾸지 않고<바꾸는 일 없이> 당당하고 있는<당당한> 것 같아요.
- (49) 저는 어렸을 때부터 춤을<을> 배우고 있다가<배우다가> k-pop의 춤을<과> 음악을 들었게<접하게> 되었어요.

一方、「하다<하고 있다>」の誤用例は(50)の1例のみ観察されたが、意味上、現在進行中の出来事なので、「하고 있다」に修正されたものである。

- (50) 요즘의<은> 한류붐 때문에<에> 한국이 주목받습니다<주목받고 있습니다>.

3.1.5. 助詞と語尾の形態的誤用²⁸ (42例：文法全体の7.3%)

活用の形態に関わる誤用である。計42例のうち、助詞が15例、指定詞が10例、動詞・形容詞の活用が17例である。指定詞関連の誤用が10例と最も多く、次いで動詞「되다」の活用が8例、「ㄷ」変格が5例となっている。以下、例とともに表に示す。

【表7】

体言 + 助詞 (15)	母音(6)	한국어 <u>을</u> <를>(5), 콘서트 <u>이나</u> <나>
	ㄷ(2)	한 살 <u>으로</u> <로>(2)
	子音(7)	춤 <u>와</u> <과>(3), 사극물<을>(2), 사람 <u>는</u> <은>, 처음 <u>로</u> <으로>
体言 + 指定詞 (10)	母音(4)	주 <u>택</u> 가 <u>이</u> 였 <u>어</u> 요<였 <u>어</u> 요>, 거 <u>에</u> 요<예 <u>요</u> >
	子音(6)	때 <u>문</u> 에 <u>요</u> <이에 <u>요</u> >, 것 <u>에</u> 요<이에 <u>요</u> >, 점 <u>이</u> 에 <u>요</u> <이에 <u>요</u> >, 기 <u>간</u> 이 <u>였</u> 는데<이 <u>였</u> 는데>
用言 (17)	正格(9)	되<돼>(5), 돼<되>(3), 불 <u>려</u> 지만<불 <u>리</u> 지만>
	ㄷ変格(5)	결 <u>면</u> 서<결 <u>으</u> 면서>, 알 <u>아</u> 들<알 <u>아</u> 들을>, 들 <u>고</u> <들 <u>고</u> >
	ㄹ活用(2)	놀 <u>은</u> <놀 <u>는</u> >, 힘 <u>들</u> 습 <u>니</u> 다<힘 <u>듭</u> 습 <u>니</u> 다>
	ㅎ変格(1)	그 <u>렇</u> 니 <u>까</u> <그 <u>러</u> 니 <u>까</u> >

3.1.6. その他 (131例：文法全体の22.7%)

その他として、131例の誤用が観察されたが、その中で頻出しているものをいくつか述べることにする。

まず、語順の誤用が13例観察されたが、そのほとんどが(51)のような副詞の語順における誤用(12例)であり、(52)のみが数詞関連の誤用例である。

(51) 한국<한국어> 수업에서는 문법을 확인하면서 많이<ϕ> 회화 연습을 <많이> 하고 싶습니다.

(52) 한국어는 네개 수업을<한국어 수업은 네 개> 이수하고 있습니다.

また、(53)と(54)のような複数を表す「들」の漏れも9例観察されており、これらの誤用は、日本語と違って、韓国語では一般に複数の場合に「들」を用

28 양명희 (2004: 336) では「부모과」、「몫이입니다」、「하도<해도>」、「놀어<놀러>」のような誤用について、「文法誤用」における「助詞と語尾の形態論的誤用」としている。

いるからである。

- (53) 인터넷에서 찾아 보면 깨끗하고 편리한 고층 아파트가 지금 한국 사람<들>에게 인기가 많은 것 같아요.
 (54) 여자<들>뿐 아니라 남자<들>도 잘<ϕ> 셀카를 <잘> 해요 <찍어요>.

次の(55)と(56)のような「하기<하는 것>」の誤用が5例観察されている。これらの誤用の原因は「하는 것」と「하기」がいずれも日本語の「すること」に該当するためである。

- (55) 일본 사람은 상대방<상대방>한테 의견을 직접 말하기를<말하는 것을> 피하려고 <피하려고> 해요.
 (56) 취미는 맛있는 음식을 먹기도<먹는 것과> 한국드라마를 보기<보는 것>입니다.

3.2. 意味論的誤用

意味論的誤用は287例が採集され、全体の24.1%を占めている。日本語の直訳によるものや類義語の混同、自動詞と他動詞の混同等による誤用が目立つ。

【表8】

誤用	数	正用	誤用	数	正用
하다	17	(유학(5)/여행(2))가다(7), 시키다(2) 되다, 만들다, 살다, 주다等	여러 가지	3	많은 곳, 여러 곳에, 여러 타입의
것	12	일(4), 경우(3), 점(2), 때, 적等	좋아하다	3	좋다(2), 좋아지다
가다	4	갔다 오다, 다니다, 하다	묻다	3	하다(2), 듣다
말하다	4	하다(3), 얘기하다	받다	3	듣다, 보다, 따다
열광	4	열광적인 분위기(모습)(3), 열정	잡다	3	하다(2), 집다
너무	3	아주(3)	요즘	3	최근(2), 얼마 전
사람	3	남(2), 상대	집	3	가게(2), 음식점

まず、「하다」の誤用が全部で17例観察されたが、そのうち、「하다<가다>」の混同が7例と最も多い。

- (57) 한국에 유학하는<유학 가는> 것이 꿈이여서<꿈이었기 때문에> (後略).
- (58) 지금까지 한국에 여행한<여행 간> 적이 한번만<한 번>밖에 없어요.

これは (57) と (58) のように「留学する (5)・旅行する (2)」の場合で、日本語では一般に「する」で受ける動作性名詞が、場所を示す「に」と共起する場合、韓国語では「하다」ではなく「가다」を用いる²⁹が、このような両言語の相違に起因する誤用と考えられる。

一方、次の (59) のように「가다<하다>」の例も観察されている。

- (59) 둘<두 번째>는 혼자서 한국에 가서 한국어만 써서<쓰면서> 여행 가는<여행하는> 것이예요.

その他、「하다<시키다>」、「하다<되다>」のような例もある。

- (60) 행복하게 하기<살기> 위해서 지금<은> 자신을 성장하려고<성장시키려고> 합니다.
- (61) <졸업 후에는> 다름<다른> 일도 괜찮지만 외국에<외국과> 관계하는<관계된> 일에<을> 하고 싶습니다.

次に、日本語の形式名詞「こと」に対し「것」を用いた誤用が12例あった。

- (62) 저는 그 것<일>에 공헌<공헌하고> 싶어요.
- (63) 한국사람은 페이스북을 일기처럼 사용하고, 자기의 생각을 쓴 긴 문장의 투고를 하는 것<경우>도 많나요<많아요>.
- (64) 사진만에서도<으로도> 한국과 일본의 다른 것<점>을 알 수 있다.

また、他人や相手を指す日本語の「人」に対して「사람」を用いた誤用が3例あった。

29 서상규 의 (2015 : 526, 565) 参照。

- (65) 저도 한국 사람을 본받고<본받아서> 사람<남>한테 관심을 더 가지고 여러<φ> 질문을<많이> 묻고<하고> 싶어요.
- (66) (前略) 여름에 한국에 유학을 갔을 때 하고 싶은 말이<을> 사람<상대>에게 잘 전해지지<전하지> 못한 것<적>도 있었어요.

さらに、連語における誤用も見られる。名詞と動詞の組み合わせにおける誤用としては、「받다」の3例が典型といえる。それぞれ「試験を受ける」、「授業を受ける」、「資格をもらう(とる)」の「受ける」、「もらう」に様に「받다」を当てはめた例である。

- (67) 내월<다음 달><에> 한국어 검정시험<검정 시험> 3급<급>을 받아서<보고> 합격하고 싶어요.
- (68) 제가 한국어를 공부하기<공부하게 된> 계기는 토<트>라이를 1학년<학년> 때 받은<들은> 것이예요. (「트라이」は科目名)
- (69) 올해는 보육사<보육 교사> 자격을 받을<맡> 수 있도록 (後略).

次のような、類義語における誤用も見られる。

- (70) 앞으로 한국어를 계속<계속> <공부>해서 한국 사람하고 같이 이렇게 말하면<얘기할 수 있으면> 좋다고 생각해요<좋겠어요>.

3.3. 表現・談話論的誤用

「表現・談話論的誤用」は162例観察され、誤用全体の13.6%を占めている。とりわけ副詞の漏れや、重複といった誤用が多く、日本語と韓国語の表現の相違による誤用も多い。

3.3.1. 挿入

162例中62例が表現上の漏れで、表現上内容の補充が必要な場合であり、全体の38.3%になる。なかでも「더, 많이, 열심히」等の副詞の挿入を必要とする例が18例と多い。

- (71) 특히 겨울의 시기는<겨울은> 춥고 바깥도 어둡고<어두워서> 일어나기가 <더> 힘들습니다<힘듭니다>.

また、「때, 동안, 지금, 다음」等の時間表現の挿入が必要な例も11例観察された。

(72) 언젠가 이번 유학보다 더 긴 기간<동안> 한국에 살아 보고 싶어요.

その他、動詞、目的語、指示語等、具体的な内容を補う必要のある例も多く見られた。

(73) 대학교 <일 학년 때>부터 <시작해서> 한국어를 공부한 지 3년이 됐습니다.

(74) 올해에서<로> <한국어를> 공부한 지 사년에<이> 되었어요.

(75) 저는<φ> 어머니가 한국 드라마를 본<보셔서> <그> 영향으로 저도 한국 문화에 관심이 생겼어요.

3.3.2. 重複

3.3.1の「挿入」に対し、同じ意味を表す表現が重複するような誤用も観察されており、(76) ~ (79) がその例である。(76) は「시간/나날」の類義語の意味的重複、(77) ~ (79) はそれぞれ「처음」、「공부」、「저」のような同一語彙の重複が見られる。

(76) 하지만 우리 어머니는 매일 집안일도 하시고 일하러 가시고 <일도 다니시면서> 바쁜 시간을<φ> 나날을 보내신데도<보내시는데도> 짬을<이> 날 때에<는> 한국드라마를 보세요.

(77) 길에서 술을 마시거나 담배를 피우면, 처음에<φ> 그 광경은<을> 처음 보는 외국인에게 나쁜 인상을 주어 버릴지도 모릅니다<줄 수도 있습니다>.

(78) 한국어 공부는 공부<φ>해도 끝이 없지만 앞으로도 <계속> 즐겨 워하면서<즐겁게> 계속<φ> 하려고 해요.

(79) 저는<φ> 어머니가 한국 드라마를 본<보셔서> <그> 영향으로 저도 한국 문화에 관심이 생겼어요.

3.3.3. 「名詞表現<動詞表現>」

日本語と韓国語の表現構造の違いによる誤用も非常に多い。これらは文法的

な誤用というより、文の「自然さ」³⁰において適切でないと判断されるものである。以下は名詞述語文を動詞述語文に修正した例であるが、韓国語では動詞述語文のほうが自然であり³¹、そのような表現構造の違いにも注意を促す必要がある。

- (80) 지금은 공부나 아르바이트나<로> 바쁜 생활입니다<생활을 하고 있습니다>.
- (81) 먼저 여자는<여자의 경우> 일본여자는 일본여성이라고<야마토 나데시코라고> 불러지만<불리지만> 한국여자는 강한 이미지입니다<이미지가 있습니다>.
- (82) 고층 아파트에 산<사는> 것은 한국사람의 스테イタス이고<스테이터스를 나타내고> 강남에 있는 고층 아파트는<아파트에 사는 게> 그림의 떡<한국 사람의 꿈인 것> 같아요.

3.4. 表記上の誤用

「表記上の誤用」は127例（全体の10.7%）見られた。母音、子音とも発音の類似による誤用が多く、発音の判別の難しさが表記の誤用に影響しているものと考えられる。

3.4.1. 子音

子音の誤用は66例で、初声29例、終声32例、その他5例である。

【表9】

子音		「誤<正>」	合計
初声	平⇔激	「ㄱ<ㅋ>」/「ㄷ<ㅌ>」/「ㅂ<ㅃ>」/「ㅈ<ㅉ>」6	9
	平⇔濃	「ㄱ<ㄲ>」/「ㄷ<ㄸ>」/「ㅂ<ㅍ>」	3
	激⇔濃	「ㅌ<ㅊ>」	1
終声	鼻音	「ㄹ<ㄴ>」6 /「ㅇ<ㄴ>」6 /「ㄴ<ㅇ>」5 /「ㄴ<ㄹ>」2	19
	ㄱ⇔ㄴ	「ㄴ<ㄱ>」3	3

30 市川保子（2001：14）では、誤用には段階（程度）があり、文法的な正確さ（accuracy）に関わるものと、文章・談話としての適切性（adaptability）に関わるものがあり、文法的には誤用とは言えないが、「自然さ」も適切性の中に含まれると指摘している。

31 林八龍（1995：271）、金恩愛（2003：3）等参照。

① 初声 (29例)

「平音⇄激音」の例が9例と最も多く観察された。「지기면서<지키면서>/한데<한테>/간판<간판>/복치<복지>」等があり、なかでも「복치<복지>」のように「ㄷ<ㅌ>」の混同が6例もあった。次に「느꼈어요<느꼈어요>/빨습니다<빨습니다>/떠분에<덕분에>」のような「平音⇄濃音」が3例、「부떠<부터>」のような「濃音⇄激音」が1例見られた。

その他、「조금이나도<조금이라도>/젓<젓>/중신<중진>/음악<음악>」等の表記の誤用が8例観察されたが、単純ミスばかりではなく、日本語の読みの影響等が考えられる。

② 終声 (32例)

終声では、「팜심<관심>/정공<전공>/한공<항공>/힘들다<힘들다>」等、「ㅇ<ㄴ<ㄹ>/ㄹ」の混同による誤用が19例観察された。具体的には「ㄹ<ㄴ>」が6例、「ㅇ<ㄴ>」が6例、「ㄴ<ㅇ>」が5例、「ㄴ<ㄹ>」が2例である。

他に、「한년<학년>/심험<시험>/3금<3급>/중다<중다>/꽃<꼭>/인터넷<인터넷>」等が見られた。

3.4.2. 母音

母音の誤用は46例観察された。主なものは次のとおりである。

【表10】

母音「誤<正>」		合計
「에<애>」 6	「애<에>」 5	11
「우<으>」 6	「으<우>」 4	10
「어<오>」 5	「오<어>」 2	7
「아<이>」 6	「이<아>」 0	6
「아<어>」 2	「어<아>」 1	3

「에⇄애」両方向の誤用が11例と最も多い。「에<애>」は「로맨틱<로맨틱>/대학<대학교>/네년<내년>/계<개>」等であり、「애<에>」は「재<제>/그런대<그런데>」等である。次に「우⇄으」が10例あり、「가꿈<가꿈>/즐거운<즐거운>/힘듭니다<힘듭니다>/댄수<댄스>」、「드

<두>/어려은<어려운>」等である。

さらに、「어↔오」(7例)は、「저금<조금>/계석<계속>/피하려거<피하려고>/서러<서로>」、「문뵘<문법>/하로<하리>」等である。他に、「한알<한일>/비뵘뵘<비빔빔>」といった「아<이>」が6例ある。これらは単純な表記ミスと捉えられがちであるが、これらの例にはすべて前後の発音に引きずられるという一定の傾向が見られ、指導上注意が必要な誤用と言える。

3.4.3. その他

連音化に関連する誤用としては、「마니<많이>/바름<발음>」等があり、「음막<음악>/땀나요<땀아요>」のように、連音化の過剰一般化と見られる誤用も観察された。

4. まとめ

本稿では日本の大学において選択外国語として韓国語を学ぶ、非専攻の中級学習者が作成した作文に現われた誤用を「文法論的誤用」「意味論的誤用」「表現・談話論的誤用」「表記上の誤用」に分類し、頻出する誤用例を中心にその特徴を述べた。

関東地域の2つの大学8クラスの延べ人数55名の作文から採集された約1200例の誤用例という、限られた資料による考察ではあるが、中級学習者が犯しやすい誤用について概観することができた。また、個々の誤用例を通し、中級学習者にとっての学習困難な項目が具体的に示されたことにより、指導の上で特に注意すべき項目が浮かび上がった。

今後は、専攻学習者の誤用例の分析と統合し、日本語母語話者の中級学習者における誤用の分析と、誤用を防ぐための指導案づくりに取り組んでいきたい。

参考文献

- 市川保子 (2001) 「第16回 日本語の誤用研究」『日本語教育通信第40号』国際交流基金 pp.14-15
- 李姫子・李鐘禧 (2010) 『韓国語文法語尾・助詞辞典』五十嵐孔一・申悠琳訳、スリーエーネットワーク
- 印省熙 (2013) 「韓国語学習者における接続形の誤用について－日本人学習者の作文例から－」『朝鮮語教育－理論と実践－』8、朝鮮語教育研究会pp.6-26
- 印省熙 (2016) 「韓国語上級クラスの二つの作文資料による誤用分析の試み」『朝鮮語教育－理

論と実践-』11、朝鮮語教育学会pp.4-24

印省熙·山田佳子·宋美玲·白寅英 (2016) 「韓国語専攻2年次生の作文における誤用分析」 『韓国語教育研究』6、日本韓国語教育学会pp.86-110

林八龍 (1995) 「日本語と韓国語における表現構造の対照考察-日本語の名詞表現と韓国語の動詞表現を中心として-」 『宮地裕先生・敦子先生古希記念論文集日本語の研究』明治書院pp.264-281

韓国·国立国語院 (2012) 『標準韓国語文法辞典』梅田博之·李允希監修、アルク

菅野裕臣他 (1991) 『コスモス朝和辞典』第2版、白水社

金恩愛 (2003) 「日本語の名詞志向構造と韓国語の動詞志向構造」 『朝鮮學報』188、朝鮮學會pp.1-83

白峰子 (2004) 『韓国語文法辞典』大井秀明訳、野間秀樹監修、三修社

油谷幸利 (2005) 『日韓対照言語学』白帝社

油谷幸利 (2006/2009) 『韓国語実力養成講座②間違いやすい韓国語表現100中級編』白帝社

油谷幸利·金美仙·金恩愛 (2015) 『韓国語実力養成講座③間違いやすい韓国語表現100上級編』白帝社

국립국어원 (2005) 「외국인을 위한 한국어 문법 2 용법 편」 커뮤니케이션북스

김상수·송향근 (2006) 「한국어 교육의 오류분석 연구 동향 분석」 『이중언어학』31, 이중언어학회pp.1-33

김선효 (2009) 「일본어 모어 화자의 정도부사의 사용과 오류 양상- ‘아주, 너무’ 를 중심으로-」 『한국어교육』20-1, 국제한국어교육학회pp.1-22

김선효 (2010) 「일본어권 한국어 학습자를 위한 어휘적 언어 학습 방안」 『이중언어학』44, 이중언어학회pp.25-47

김정남 (2006) 「한국어 학습자의 오류 유형에 대한 연구-시제 및 연결어미 표현을 중심으로-」 『이중언어학』32, 이중언어학회pp.115-138

김정은 (2004) 「일본어권 학습자의 조사 오용 양상」 『한국어교육』15-1, 국제한국어교육학회pp.1-31

김진호 (2010) 「외국어로서의 한국어학개론」 도서출판 박이정

사와다히로유키 (2004) 「일본어권 한국어 학습자 작문에 나타난 접속 부사의 사용과 오류 양상」 『국어교육연구』14, 서울대학교 국어교육연구소pp.147-182

서상규 외 (2015) 「외국인을 위한 한국어 학습 사전」 신원프라임

안경화·양명희 (2005) 「일본어권 한국어 학습자를 대상으로 한 조사 ‘의’ 의 교수 방안」 『이중언어학』29, 이중언어학회pp.195-223

양명희 (2004) 「일본어권 고급 학습자의 오류」 『한국어 의미학』15, 한국어의미학회pp.329-352

오기노신사쿠 (2015) 「일본인 학습자 대상 한국어교육 관련 연구 최근 동향 분석-2008~2014년의 연구 성과를 중심으로-」 『한국어교육』26-1, 국제한국어교육학회pp.155-194

우인혜 (1998) 「일본인 한국어 학습자의 오류 연구」 『새국어교육』56-1, 한국국어교육학회pp.47-71

이수경 (1996) 「일본어를 모어로 하는 한국어 학습자의 오용의 경향에 관하여-특히 ‘조사, 접속어미, 보조용언, 시제와 상’ 을 중심으로-」 『한국어교육』7, 국제한국어교육학회pp.87-108

- 이수경 (1997) '일본어를 모어로 하는 한국어 학습자의 '하고 있다' 와 '해 있다' 의 오류 분석'
"한국어교육" 8, 국제한국어교육학회pp.73-90
- 이정희 (2001) '한국어 학습자의 시제 오류 연구' "이중언어학" 18, 이중언어학회pp.259-277
- 이정희 (2002) '한국어 오류 판정과 분류 방법에 관한 연구' "한국어교육" 13-1, 국제한국어
교육학회pp.175-197
- 이정희 (2003) "한국어 학습자의 오류 연구" 도서출판 박이정
- 이지연 (2012) '일본인 한국어 학습자의 조사 오류 분석-시마네현립대학 학생들을 대상으로-' "이중언어학" 49, 이중언어학회pp.299-319

국립국어원 표준국어대사전 <http://stdweb2.korean.go.kr/main.jsp>